

昭和62年度の予算と事業計画

島根県立図書館長 稲田 健二

昭和62年度の県立図書館の予算が確定いたしました。本年は、4月に知事選挙を控え、骨格予算となり、当館が最も重要施策として要求していましたが、電算機の導入は、補正予算において検討されることになりました。その他の主要事業については、ほぼ要求どおり認められました。

1 子供読書普及事業（1782千円）

この事業は、59年度から親子読書をふまえて実施した事業であり、61年度で第I期指定町村（東出雲町、大東町、吉田村、桜江町、邑智町）の事業が終了しましたが、事業の推進にあたって町村間に大きな格差が生じました。その主たる原因は、読書指導員、ボランティアの人材確保の困難さにあつたように思います。

本年は、第II期指定町村（美保関町、掛合町、金城町、津和野町、柿木村）の第2年次にあたりますが、第I期指定町村の反省のうえにたつて、読書指導員、ボランティアの発掘、育成に力を注ぐとともに、学校、家庭との連携を密にし、効果のある子供読書普及活動を進めてまいりたいと考えております。

2 電算機導入事業（4,117千円）

年次計画で、62年度に電算機導入を計画いたしておりましたが、前述のとおり、補正予算から

みとなりました。当初予算では、61年度から継続の目録データ作成等の費用のみが認められました。これで目録データは、当初計画105千冊の約70%が完了することになります。

3 西部読書普及センター（14,078千円）

県西部に対する県立図書館のサービスを拡充するため、開設した西部読書普及センターも1年を経過いたしました。

開設から日も浅く、まだまだPR不足も手伝って、十分な活用がなされなかったのではなかろうかという反省もいたしておりますが、市町村読書施設に対する図書資料の援助、運営の技術指導、読書普及活動への指導、助言等それなりの効果をあげ得たものと自負しております。

本年は、さらに、1万冊程度の図書を新たに購入し、センターの内容の充実を図ってまいりたいと考えています。積極的な利用を期待いたしております。

なお、これら主要事業以外の事業につきましても、前年度並の予算を獲得することができました。限られた予算ではありますが、効率的な執行を図り、県民の皆さんの要望にこたえたいと思っております。

最近、生涯教育あるいは生涯学習という言葉をよく耳にします。生涯学習とは生涯を通じて学ぶということですが、学びたい人が必要な時に自由に学ぶというのが本旨です。

ところで、生涯学習ということが強く言われるようになった背景には、①わずか十数年程度の学校教育での知識だけでは、最近の急激な社会情勢の変化について行けなくなったこと、②高齢化時代、週休2日制時代に移行することにより、余暇時間が増加したこと、などがあります。

このような状況にあつて、地域住民の文化生活面でのサービスを受け持つ公共図書館が、生涯学習のための最も重要な施設であることは間違いありません。

では、公共図書館は今後どのように対処したらよいのでしょうか。まず、資料を十分に収集し、これを最大限利用していただく、ということは従来と変わりません。しかし、資料は今までの“図書”中心から、次第にマイクログ資料、視聴覚資料、特にニューメディアと言われる資料を幅広く収集することになるでしょう。

一方、資料の利用の仕方は随分変わってくると思われれます。コンピュータと通信設備の整備により、図書館が所蔵する資料の中の個々の情報が、遠隔地からでも、直接端末器に呼び出すことができるようになります。また同様に、ファクシミリを使うことにより、必要な箇所をコピーすることもできるよう。ただこのような状況は、まだしばらくは待たねばなりません。

現在、島根県立図書館が重点的に行おうとしている仕事は、図書館がどのような資料を持っているか、さらに、資料の中にどのような文献が入っているかを、コンピュータに記憶させることにより、必要な時に必要な情報を端末器に呼び出すというシステムづくりで、63年度稼働を目指しています。

最後に、公共図書館の重要な任務として、この地域の資料や情報を責任を持って収集し、利用に供することです。そのためには、資料の収集体制を早急に確立しなければなりません。行政機関や民間団体、個人の方々との協力を得ながら実現して行く必要があります。

1 子供読書の経過

県教育委員会が策定した「第1次読書普及振興計画」により、県下に普及定着してきた「親子読書」を基盤に異年齢の仲間とふれあい読み合う「子供読書」活動が昭和59年度から始められています。

第I期モデル町村である東出雲・大東・吉田・桜江・邑智では今年度で指定期間が終了しますが、来年度からは町村の自立活動として継続されることとなります。

3年間にモデル町で70グループが作られ、毎月、各町村の実状に合わせて行事を取り入れる等、読書会が行われています。はじめは指導員さんもどのように読書会をすすめていったらよいか試行錯誤の出發であったようですが、子供達と回を重ねる度に親しくなり面白さも増して、子供達の変容に励まされながらやっているという話も聞かれるようになりました。又桜江町では80%以上の子供達が読書会に喜んで出席し、本をよく借りるようになり、親も子供読書会の良さを感じ、今後も続けてほしいとの声の大多数を示しているとのアンケート結果が出されています。

モデル外町村でも27グループが育ち、図書館、公民館の活動の中で徐々に子供読書活動が広がりつつあります。

2 子供読書の課題

子供読書を推進するためには、常に地域の子供達と接しながら、仲間読みの橋渡しをする人(指導員・ボランティア)が必要です。子供達の声をうけとめうなずき、引き出してやる人がいなければ子供読書活動は出来ません。

I期モデル町村においては最初、教員を退職された方が指導員に多かったのですが、次第に人材確保が難しくなり活動の輪を広げることが出来ない町村が出てきました。II期モデル町村においては学校で父団の理解を深めていくうちに地域の父団ぐるみで取り組みがはじめられた町村が出てきました。

今後は、これらのボランティアの人達の活動を支えるために教育委員会が中心となって、地域で組織(読書普及推進協議会)づくりをし、子供読書活動がすすめられていきます。

公共図書館めぐり③ 安来市立図書館

安来市安来町896
TEL 08542-2-2574

「こんにちは、おばさん本借りに来たよ」
「いらっしやい、元気がいいね。新しい本が来てい
るよ。好きな本借りていいよ」
「この本おもしろかったよ」
「おばさんありがとう」
子どもとボランティアのお田さんの会話が市内のあ
ちらこちらで聞かれるようになった。

昭和42年8月、市民待望の市立図書館が開設した
ものの、老朽化した旧信用金庫の建物を手直しし発
足したもので、図書館とは名ばかりのお粗末な施設
であった。それでも本市にもようやく文化の灯が点
燈された思いで喜びに満ちていた。当時は、図書館
としての機能は閲覧、貸出し業務のみであり、細ぼ
そと図書館活動をしていたが、昭和55年10月、安来
市立中央公民館、図書館の併設館が完成し、本格的
な文化活動の拠点ができ、図書館としても施設、設
備や蔵書の充実を図りながら、読書普及活動の推進
に意を注ぐことができるようになった。

幼児期から読書の習慣を身につけさせることと、
読書普及の底辺拡大のため、昭和56年中央公民館と
タイアップして実施した親子読書研修会がひとつの
きっかけとなり、昭和58年度には、読書推進モデル
地域を設定し、赤江公民館において、小学校一年生
の親子を対象に、子ども読書会を開始した。おはな
し会、本の読み聞かせ、手づくり工作、本の貸出し、
読書通信などを行った。この読書通信に、毎回親と
子の感想文を出してくれる人もあり、親子のふれあ
いも深まり積極的に読書活動に取り組んでもらうこ
とができるようになった。そのうちお田さん方は、
子どもたちが喜んで参加する姿や、本を読んでもら
い、いろいろなつづやきをする顔を見て、自分たち
の手で、ぜひ、読書会を継続して行こうとの意見が
出され、次の年から、お田さん方による活動が行わ
れるようになった。

赤江地区の親子読書会の成果は、当館の自信と他
地域への普及活動の基盤となり、その後毎年一地区
を読書活動推進地区に指定し、地区公民館との共催
により、親子読書研修会、読書会、お話し会、また、
たなばた会やクリスマス会など、季節の行事を取り
入れ、それぞれの地域の特性を生かした読書活動を
進めている。

こうした読書活動の中心は、ボランティアのお田
さん方であり、今では赤江地区21人、島田地区11人
社日地区4人と年々増えており、各地域での読書活
動もようやく定着してきたと思われる。ボランティ
アのお田さん方の熱心な働きかけに子どもたちは、
喜んで参加するようになり、また、生き生きと眼を
輝かせる子らを見て、お田さん方も、
「子どもたちが、こんなに喜んでくれるから、いつ
までも続けたいね」

「こんどは、何をしようかね」
とか話し合い、毎回楽しく活躍されている。このよ
うに読書活動の原動力となっておられるボランティ
アの方々には感謝の念で一杯である。

いまひとつ、安来市の読書普及に大きく貢献して
いる親子読書サークルについて紹介すると、このサー
クルは、市内の田親10数人によって、昭和57年4
月、中央公民館・図書館登録文化団体として誕生し、
活動の中心は、幼児への絵本の読み聞かせと子ども
読書会のボランティア活動であったが、今では会員
が40人に増え、自作の脚本による手作りの人形劇を
創作し、市内の保育所、幼稚園など各施設で上演し
て回るなど、その活動は目をみはるものがある。



振り返ってみると、昭和56年度から市立図書館の
主催ではじめた絵本の読み聞かせが、市立図書館を
軸に、中央公民館から、地区公民館へ、そして地域
のお田さん方への広がりをもせてきた。

こうしたお田さん方、ボランティアの活動に感謝
すると共に、市立図書館としての十分なバックアッ
プ、援助ができるよう、図書館の機能の充実を図り、
さらに市民の読書の輪を広げるため、今後一層の努
力を続けていく所存である。

昭和62年度 県立図書館各種講座

講座名	万葉集を読む会	古文書を読む会	
		入門	上級
開催日	毎月第2木曜日	毎月第1土曜日	毎月第3土曜日
時間	14:00~16:00	13:30~15:30	13:30~15:30
講師	島根大学名誉教授 小原幹雄	郷土史家 桜木保	島根女子短大助教授 藤岡大拙
募集人員	50名	50名	50名
対象	一般	一般	一般
内容	現存する最古の歌集「万葉集」の講読と鑑賞を行います。原文の解読にとりくみつつ古代文化の精髓にふれる講座です。テキスト…「万葉集一」（日本古典全書）朝日新聞社発行	古文書の読解を初歩から手ほどきする講座です。 テキスト…毎月、当館で印刷したものを渡します。代金は6ヶ月分600円。	入門講座を終えた程度の読解力をもつ人が対象になります。テキストの読解はもとより、史料の背景をなす郷土の歴史に及ぶ講座です。

図書館講座

「万葉集を読む会」に参加して

松江市 福井貴美子

この講座は昭和57年5月より開かれています。毎月1回の受講で第2木曜日にあります。会員数は40名位で殆ど中高年の婦人ですが、男性の方の参加もあります。講師は島大名誉教授の小原幹雄先生です。先生はこの道に大変造詣深く、懇切丁寧に教えて下さいますので、楽しくこれがテストでもあれば大変ですが、その心配もなく気楽に受講出来ます。

現在、巻四の相聞歌を鑑賞しております。万葉の時代背景や1200年も昔の「あをによし奈良の都」と謳歌した白鳳・天平時代の古代人はどのように生きていたのかしらと思ったり、天皇を中心とする当時の支配層内部の葛藤やその専制戦乱の下で苦しむ人民の生活の哀歎…。栄枯盛衰は世のならないですが、私はいま大伴家持の多難な生涯と苦悩の日々に思いをめぐらし、天智・天武の両帝に愛された額田王のことなどを思ったりしています。

幾多の万葉の歌人たちの生きざまの片鱗を歌によって思ふ、そんな図書館での勉強の機会に限りなく感謝しております。

私と古文書

松江市 増田忠三

私と古文書とのかかわりは第二の人生を迎えてからである。読めたらという願望は前からあったが、時間的余裕がなかなか持てなかった。

図書館の講座に参加する以前、町内会の文化部で始めた「古文書を読む会」に参加したことがある。その後、図書館の方へ変わり、約4年、登壇拒否もしないで続けている。講師の桜木保先生には町内会の時からお世話になっている。遅々として上達しないけれども、初めは懸命なルビ付けの努力も次第に少なくなり、又今まで知らなかった昔のしきたりや生活などを知ることができ、第二の人生をいささかでも豊かにする一助にもなっている。

又、藤岡大拙先生の上級講座にも顔を出しているが、これは入門コースを卒業したという事でもなく更に難解な文書に挑戦するというような思い上がったものでもなく先生の造詣の深い地域史や郷土史の話に魅力を覚えたからであり該博な知識と明快な話しぶりに感服しながら傾聴している次第である。皆さんも参加して貴方の人生を豊かにしませんか。

受講者募集!

- 会場は…いずれも県立図書館集会室です。
- 受講料は…無料です。
- 申込方法は…直接、又は、はがきか電話で、「受講希望講座名・住所・氏名・電話番号」を〒690 松江市内中原町52 島根県立図書館普及係まで ☎0852-22-5730

「出雲国風土記」を読む会	図書館読書教室	子供読書会	親子で絵本を読む会
毎月第2金曜日	毎月第2火曜日	毎月第4土曜日	毎週水曜日
13:00~15:00	13:00~15:00	14:00~16:00	15:00~16:00
島根女子短大助教授 藤岡大拙	なし	県立図書館職員	県立図書館職員
50名	50名	30名	フリー
一般	一般	小学生	幼児・小学生とその親
わが国でただ一つの完本として残っている「出雲国風土記」を講読しながら古代出雲の実相を把握し、郷土のもつ深い歴史性を理解する講座です。 テキスト…「出雲国風土記」 加藤義成著 報光社発行	参加者で10人前後のグループを編成します。各グループで、毎月同じ本を読んで来て、意見の交流をします。 グループで話し合うことで、人生や社会に対する見方、考え方が豊かになり、個人の読書生活が深まります。 テキスト…「成人読書会用図書」312セット(1セット15冊)を利用できます。	毎月、グループで同じ本を選んで、各家庭で読みます。翌月、図書館職員を交えて、その本をもとに語り合います。 その中で、一人では得られない読書の喜びを深めるようにします。 テキスト…「子供読書会用図書」350セット(1セット15~20冊)の中から選びます。	当館職員が絵本の読み聞かせをします。 親子で、集団読み聞かせの楽しさを味わい、絵本に親しむひとときをもちます。 親には、絵本について説明をし、理解を深めてもらいます。

参加者の声

講座「出雲国風土記」に参加して

松江市 廣田 敏夫

私と「出雲国風土記」との出会いは、先年の「くまのこころ」に関連し、公民館で数回藤岡先生の国引の由来の講義を聞いたのがきっかけであった。図書館の各種講座に参加してまだ二年足らずのずぶの素人だが、先生の汲めども尽きない名講義に魅せられこれだけはサボらずに頑張っている。

「風土記」のすばらしさは、現存する全国唯一の完本の誇りとその編集の豊富さと正確さはもとより他方雄大荘重な文学的口マンの記述に驚きと魅力を覚える。それというもこの「風土記」研究に情熱を注がれた郷土の先達、加藤義成先生の名著をテキストとし、優れた郷土史家である藤岡先生が講師で分かり易く解説される。さらに律令制度や出雲神話と記紀神話の特性比較、引用など巾広く又深い内容に興味は尽きない。又時には先生独自の脱線がたのしく、ことに荒神谷王権の推理など小説を読むより楽しい。「風土記」が千余年の時間をこえてこんなにも身近かに郷土の古代に親しみを感じさせてくれるのはこの講座のおかげである。私はこの講座の続く限り参加しようと思っている。

図書館子ども読書会

県立図書館では昭和59年度より「子供読書モデル指定事業」がスタートしています。この活動は他府県にその先進の例がなく図書館側も現場に共に学びながら活動をすすめています。図書館でも現場に合わせて、子供読書会を61年度から開いています。現在、2~5年生の子供達が毎回10名前後参加しています。市内、各学校から集まり、お互に親しくなつて、活発な意見が交換されます。

最近の読書会の時に次のような意見が出ました。
「私は一人で読んでいたら、そこまで考えなかった。皆と話し合っているうちに今まで気づけなかったことがいろいろ分って良かった」「このグループは人数が少なくても気楽にもの言える。だからなんでもものが言える。学校でも自分の考えが発表出来るようになってうれしい」「登場人物の心の動きを深く考えるようになった」「絵を読んだり、人のお話を聞く力も出来た」

読書会のよさが学習につながっていくようです。読書の好きな人、あまり好きではないが他の学校の人達とも友達になりたい人、一度参加してみませんか。

郷土資料モニター

郷土資料モニター制度は、それぞれの市町村内の郷土関係資料についてあらゆる情報を収集し、その所在の把握と所蔵資料の充実をはかるため、昭和53年11月に、各市町村教育委員会の推せんにもとづき、地域の諸事情に通じた方々を委嘱し、発足しました。現在4期8年を経過し、昨年12月より第5期（任期2年）がスタートしています。今期も年頭より、様々の情報を続々といただき、資料の充実にご協力いただいています。

近年、郷土に対する利用者の関心は高く、資料の要求も多岐にわたり、それにこたえるために、県内の多種多様な情報が必要になってきました。新聞、雑誌、書籍等から、できるだけ出版情報を収集し、資料の充実而努力していますが、網羅的に収集するためには、その地域地域で得るのが一番早く、また、多いと思われます。

また、地域に古くから保存されてきた古文書類が、生活様式の変化等に伴い、散逸の危機に瀕しています。これらの文書類が、廃棄や、遠方へ売却されたり、保管が困難な状況で、破損、虫損のおそれがある時、何らかの手をうたねばなりません。

このような理由により、郷土資料モニター制度が発足し、現在に至っています。

情報をいただくものとしては

『個人、グループ等の刊行物』 例えば、詩集、句集、歌集、文集、追想録、研究論文等。

『農協、商工会、観光協会、青年協議会、婦人会等諸団体の刊行物』 例えば、広報、会報、商工名鑑、観光パンフレット等。

『古文書、古書、古新聞、古写真、古絵画、古地図等』

これら資料の出版情報や所蔵様子等をもとにして、購入や、寄贈の依頼、又は複写等の方法で収集に努めています。

郷土資料モニター名簿（敬称略）

（安来市）安部敏雄・松本興、（伯太町）梶谷範敏（広瀬町）妹尾豊三郎、（東出雲町）太田一雄、（八雲村）三好ふみ子、（八束町）門脇正明、（美保関町）寺本洵、（島根町）山田倭、（鹿島町）岡庸

道、（玉湯町）勝部衛、（宍道町）野村泰久、（松江市）恩田清、（平田市）小村武雄・河原喜久夫、（佐田町）田中迎亮、（斐川町）富岡俊夫、（大社町）中和夫・梶谷実、（湖陵町）馬庭将光、（多伎町）山本一男、（出雲市）今岡清・原宏一・永田滋史、（仁多町）杠誉富、（横田町）高橋一郎、（大東町）高橋修、（木次町）石橋俊雄、（加茂町）杉原顕道、（三刀屋町）永塚久守、（掛合町）松村千弘、（頓原町）今田昭二、大森民雄、（吉田村）大場薫、（赤来町）長里禧彦、（大田市）山本清助・黒河邦之、（仁摩町）小林俊二、（温泉津町）重田保之、（江津市）原龍夫、上田勤、（邑智町）貝谷力男、（川本町）福田高一、（瑞穂町）尼川尚明、（石見町）松川伸作、（桜江町）船津重信、（大和村）三上俊夫、（羽須美村）細貝芳弘、（浜田市）佐々木徳三郎、山藤忠、（金城町）隅田正三（旭町）新井卯一、（弥栄村）寺本博、（三隅町）寺戸博、（益田市）矢富敏夫、（美都町）児高房夫、（匹見町）糴田長市、（日原町）大庭良美、（六日市町）堀糸太郎、（柿木村）葛瀬幸男、（津和野町）森澄泰文、（隠岐島後）山西作二、横田武、（隠岐島前）松浦康磨・浜見敏明

郷土資料室だより

郷土資料収集について

県立図書館では、島根県に関するあらゆる資料を網羅的に収集するため、郷土資料モニター制度の運用をはじめ、県内各地の様々な所へ出版物の寄贈等をお願いしております。国には、国立国会図書館への納本制度があり、全国の資料が集められていますが、県にはまだ制度化されたものではありません。

しかし、地域で出版されたものは、その地域で保存されることにより活用のチャンスも多いと思われます。「あの本はどこに？ この記事は何に載っていたか？」と捜される時、身近な所で手にとってみることができるよう、できるだけ収集したいと思います。どんな小さなものでも大切な情報源となる資料です。当館郷土資料室では、お寄せいただいた資料を分類、整理しいつでも利用できるよう整備に努めていますのでご協力ください。

連絡先 松江市内中原町52 TEL (0852)22-5742
島根県立図書館郷土資料室

子供読書に関する本

県立図書館では昭和59年度から「親子読書」で育った子供達を対象に「子供読書モデル指定事業」をすすめています。子供読書をすすめるうえで参考となる本を図書館所蔵資料の中から選び紹介します。

書名	著(編)者	発行所	刊年	書名	著(編)者	発行所	刊年
あたらしい子どもの本の世界1~7		金の星社	S45~ S51	子どもの読書の導きかた	石井桃子	国土社	S 39
1. あたらしい子どもの本の世界		〃		子どもの発達とテレビ	岩佐京子	童心社	S 54
2. 読書相談の理論と実際		〃		子どもの本と読書を考える	渋谷清視	鳩の森書房	S 53
3. 幼児のための絵本と文学		〃		子どもの本の選び方・与え方	鳥越 信	三省堂	S 48
4. 集団読書のすすめ		〃		子どもの本の現在	清水真砂子	大和書房	S 59
5. 親子読書会のすすめ		〃		子どもの本の作家たち	西本鶏介	東京書籍	S 57
6. 手さぐりできり開いた親子読書会		〃		子どもの本の世界	ヒューリマン	福音館	S 44
7. 子どものための文学の本		〃		子どもの本の歴史(上・下)	J.R.クンペド	岩波書店	S 57
新しい読書教育—低学年—	増村王子	国土社	S 52	子どもの本をつくる	小宮山量平	日本エディター スクール出版部	S 59
〃 —中学年—	小林利久	〃	S 52	子どもの本を読む	河合隼雄	光村図書	S 60
〃 —高学年—	石上正夫	〃	S 53	子ども漫画の世界	斎藤次郎	現代書館	S 54
新しい幼児のための読書教育	代田 昇	〃	S 52	3歳から6歳までの絵本と童話	鳥越 信	誠文堂新光社	S 43
いま子どもの本とはなにか	日本子どもの 本研究会	岩崎書店	S 60	集 団 読 書	松尾彌太郎	国土社	S 49
映像文化時代の子供達	小木美代子	PHP研究所	S 55	テレビの見かたと読書の導き方	阪本越郎	暁教育図書	S 42
家庭の読書指導	滑川道夫	国土社	S 52	読書と人間形成	佐藤忠男	千曲秀出版	S 53
聞く読書から読む読書へ	増村王子	〃	S 48	読書のくふう	浜中重信	さえら書房	S 43
コルウェル女子講演録	松岡享子訳	東京子ども 図書館	S 53	(新版)テレビに子守りをさせないで	岩佐京子	水曜社	S 55
子育て読書をどうすすめるか	石上正夫	青木書店	S 61	日本漫画史(上・下)	石子 順	大月書店	S 54
こども・こころ・ことば	松岡享子	こぐま社	S 60	本がよみたくなる本	山崎哲男	ポプラ社	S 46
子どもと子どもの本のために	ケストナー	岩波書店	S 52	本・子ども・大人	ポールアザール	紀伊國屋書店	S 32
子どもと読書	代田 昇	新日本出版社	S 52	本と子ども	合田 修	国土社	S 43
子どもの成長と読書	日本子どもの 本研究会	岩崎書店	S 54	本のある遊び場	長崎源之助	公文数学 研究センター	S 56
子どものための文学の本	渋谷清視	金の星社	S 48	本を読む子を育てる	鈴木喜代春	国土社	S 61
子どもの読書を見なおそう	代田 昇	岩崎書店	S 52	もっと本を読もう	増田信一	リブリオ出版	S 60

戦後の混乱期から落ち着きを取りもどした昭和27年9月、当時の婦人会長が教養を高めるためにと手持ちの本を回し読みしたのが読書会の始まりです。

そして翌28年4月、会費20円を出し合って新刊を買い、計画的な読書をするようになりました。会員は農業、商業、サラリーマンと様々です。

現在、会員数20名で会費が月200円。本の設置場所は世話役の家です。部長を中心に年間行事をたて年に2～3回集まって、読んだ本の感想を述べ合ったり、回し読みの本入れ袋を作ります。会員の要望を入れて現在5冊の月刊雑誌と話題になった小説の単行本等を回しております。発足当時会員であった家の嫁さんや子供さんと3代にわたって読まれている家庭もあり、よくこんなに永い間続いたものだと思います。決して無理をしなかったからこそ30有余年続けられたんだと思います。

又、月約4千円の本を1人当り200円で読めることや家庭全員で読める特典もあります。

蔵書の数は寄贈もあって現在約800冊あります。先般、これらの本の虫干しをしていたら「いい本が



ありますね。分けていただけませんか」と言われたと係の者が話しておりました。月刊雑誌は年度の終りに会員がジャンケンでキャラクター言いながら、各人が好きな本を持ち帰ります。その時は童心にかえり、過ぎ去った一年の早さを感じるときでもあります。

一昨年、図書館の協議会委員になったのを機に、いろいろアドバイスを受け、地元の歴史等のビデオも借りて勉強会をしています。又、昨年の秋、松江のプラバホールのすばらしい図書館を見学しました。本を読むことによって簡単に行けない全国各地を知り、旅をした気分を味わうことが出来ます。「本を読む」ということが如何に人間形成の一助になりうるか分かりません。本によっては人の命を救う場合もあるといっても過言ではありません。

今後は永続50周年を目標に内容を充実しながら会員を増やし、伝統ある読書クラブの灯を消さないようがんばりたいものと念じております。

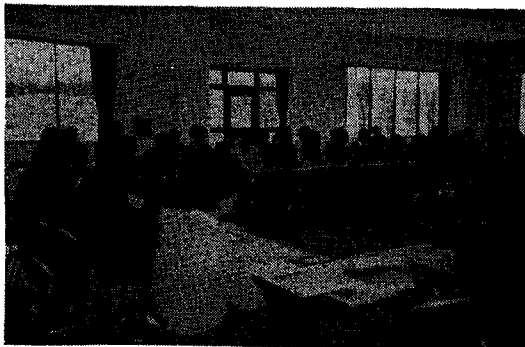
グループ名 浜田市下府婦人会
会員数 20名 代表者 石原末子

NEWS

市町村読書普及研修会開催

去る2月16日と19日に県立図書館と西部読書普及センターの2会場で、市町村の読書普及活動に携わる指導員、ボランティア、教育委員会職員等210余名が参加した。

モデル事業である「子供読書」の指導上の悩みや読書会のすすめ方等具体的な問題をとりあげ協議した。終始指導員と子供読書に関心を示されたボランティアの方々の熱意が伺える研修会であった。



桜江町など三町に図書館新設される

昭和56年度から桜江町と美都町は図書センターとして、県の指定を受け5ヶ年計画で本格的な図書館を目指し、図書の整備や読書活動が進められていたが61年度、条例により各々町立図書館となった。又、57年度にセンター指定を終了していた旭町も61年4月に図書館となった。これで県内の公共図書館は23館でになった。

県立図書館協議会開催

3月4日、集会室において協議会委員が集まり、①昭和62年度の当初予算の概要について、②62年度の事業計画について協議をした。館内奉仕活動の目玉であるコンピュータについて将来、利用者が検索出来るか、機械操作を行うための職員研修の受講方法等質議があった。読書普及活動については今後、ますます指導員の派遣が多くなるので、県立図書館に代わる指導員養成が期待された。